

課題曲の中の課題 2011

櫛田 朕之扶

課題曲の提出の仕方が、ほぼ定着したと見れば良いのでしょうか。今年も、マーチが2曲とマーチ以外の曲が3曲、全日本吹奏楽コンクールの課題曲になりました。

まず、2曲のマーチですが、昨年と同じように、違ったスタイルの2曲が提出されました。

4分の2で書かれた『マーチ「ライヴリー アヴェニュー」』は、動機の執拗な繰り返しや歯切れの良いリズム設定から言って、「行進曲」という形式を確保した、行進曲らしい行進曲です。内容は、表題のように、爽快な・洒落た・ジャズっぽいコード設定から、ジャズやポピュラー・ミュージック的なコード進行の設定になっていて、1950・60年代のミュージカルの幕開けを楽しんでいるような曲となっています。

もう一方の『南風のマーチ』は、もうこの言葉を何回も使ってきましたが、いわゆる課題曲マーチです。テンポやリズムは行進曲として設定されていますが、内容的には歩くマーチというよりはコンサート・マーチでしょう。一種のムード音楽か、ポピュラー音楽と考えれば良いと思います。内容は、「春が来た」という季節や自然に対する気持ちを描いたもので、これもいつも言っていますように日記のような「私音楽」です。

マーチ以外の曲では、性格・形式・手法の全く違った3つの作品が取り上げられています。

『天国の島』は、日本人的な感性が、脱都会的な方向から描かれた作品です。伝統的な日本音階を上手く組み立てた部分と、西欧音楽的に処理した部分とで、作曲されています。総じて日本音楽です。

『シャコンヌ S』は、「シャコンヌ」という古典的な形式に、和声の組み立て方や、テンションを加える、といった方法を用いて現代的色彩をほどこした作品です。プロの作曲家の手によるもので、必要十分条件の備わった、隙がない曲となっています。音楽の基礎をしっかり学習するための、良い教材でもあります。

『「薔薇戦争」より戦場にて』は、シェークスピアの戯曲からインスピレーションされた曲、との解説が作曲者によって書かれています。戯曲の付帯音楽でもないようですので、色々な場面・登場人物・葛藤などを、演奏する側も自由にイメージすれば良いと思います。ただ、あの「薔薇戦争」のドロドロとした人間模様や複雑なストーリーのどこを捉え、描けば良いのか、また、戦場といってもどの場面なのかをイメージするのは、大変苦労します。これだけの長さの曲において、壮大なドラマを皆さんの表現力で…と言われても、それはちょっとゴメンナサイと言ってしまいたくなります。この曲は、「薔薇戦争」という大きな組曲があって、その中の「戦場」ということでしょうか。私なりに、は、「小規模の交響詩」と捉えることはできますが。

I マーチ「ライヴリー アヴェニュー」／堀田庸元

題名通りと言って良いのでしょうか、賑わう街角・人々の幸せを運ぶ足取り・オシャレなウィンドウショッピング・笑いっぱいの会話、そんな「ライヴリー アヴェニュー」です。色彩感溢れる都会は、落ち着きのない喧噪に包まれてもいます。しかし、その賑わいは、エネルギーの再生・明日への活力を与えてくれます。今日でこそ、この感覚はやはり、誰もが持つ必要があるのではないのでしょうか。ジャズっぽいこのマーチは、ちょっと前のミュージカルの幕開けのようです。ここに描かれたアヴェニューは、東京のどこかというより、ニューヨーク・ブロードウェイという感覚がします。

構成は解り易く、リズム動機が何回も繰り返されて、カウンター・メロディが第2・第3主題のように加わってくる前半のマーチと、「A 列車」に乗った Trio で出来ています。いい気分で、口笛でも吹きながら、勝手なおしゃべりを楽しみながら、演奏しませんか。ワクワク気分で、コンクールの課題曲ということをお忘れちゃいましょう。

〈イントロダクション〉【冒頭8小節】

Brioso (ブリオーソ：澁漑と・新鮮に・元気に) という珍しい表情用語が使用されていますが、要は、陽気に・元気よく行きましょうということです。旋律ラインをしっかり確保して(躍動感・爽やかさを持った良いメロディラインです)、和声の T (トニック) →S (サブドミナント) →D (ドミナント) の動きを鮮明に響かせましょう。3小節目の減和音は、S へのセカンダリー・ドミナントの機能を持っています。

〈マーチ - A・A'〉【A】

このマーチの主題は、何と言ってもこのリズム動機が良いです。2拍子の上に3拍子が乗っかって、ステップを踏むような、気分の高まりを与えてくれます。7th・6thと下降する旋律ラインも爽快です。フレーズの段落も、テンション・ノートやサブスティテュート・コードが響き、洒落ています。A'の後半33小節目からの、Alto Clarinet・Tenor Saxophone・Horn 1&3・Euphonium のラインは、ベースラインと共に、オシャレな半音下降コード進行を作る上に、とても重要です。

15 B \flat (#11)

23 Gm/B \flat D \flat 7/B C

33 Bm7(\flat 5) Bm6 Am7 A \flat dim

〈マーチ - A''・A'''〉【B】

カウンター・メロディが加わってきます。このカウンター・メロディは、このマーチの一つの特徴として、カウンター・メロディという以上に、第2 主題的要素を持っています。この部分において、このメロディが主題と言っても良いのではないのでしょうか。

B F

mf

B \flat

9th (メロディは#11th)

〈マーチ - B〉【C】

本来ならここでサビが少々洒落っけを見せるのですが、この曲の場合、反対に主題マーチが洒落ていて、このサビはとても生真面目です。最後のドミナント・フレーズは、半音下降ベースラインで、格好良さを作り出しています。

C C7

f

F

D7

Gm

〈マーチ - A'''・A''''〉【D】

【B】と同じく、Alto Clarinet・Tenor Saxophone・Trombone・Euphonium のカウンター・メロディが、第3主題として登場します。

D

〈Trio - A・A'〉【E】

4小節の導入句のあと（この導入句のベースラインには、これからの曲のイメージを感じられます）、Trioに入ります。

冒頭の8小節は、敬愛するデューク・エリントン・バンドのオープニング、B.ストレイホーンの『Take the "A" Train』じゃありませんか。さあ、「A列車」に乗ってどこへ行くのでしょうか。

まあ、そんなこと良いんです。洒落かパロディなんです。この曲のハシャギぶりやワクワク感からすると、OKです。ハーレムのジャズを楽しんで（ちょっとアブナイですが）、マッハッタンの北へ出るのでしょうか。「パリのアメリカ人」ならず「ニューヨークの日本人」でしょうか。

この部分の主旋律・コード進行は、ずっと最後まで変化なく、繰り返し続けられます。設定されているコードは、テンションの効いたジャズっぽいムードが漂って、カッコイイです。

〈Trio - A''・A'''〉【F】

メロディ・コードともにそのまま、【E】が繰り返されます。Flute・Oboe とミュートした Trumpet の、いわゆるオカズは、良い意味の遊び感覚で演奏してみましょう。

〈Trio - B /サビというか、挿入句・エピソード〉【G】

イントロダクションのリズム・ファクターを使った挿入句です。最初の8小節はトニックのペダル・ポイント (Bb)、次の8小節はドミナントのペダル・ポイント (F) を使っています。最後の4小節のドミナント・フレーズは、rit.してなかなか良いですね。

〈Trio - A'''・A''''〉【H】

ミュージカルの大団円を迎える部分です。シンプルに描かれた人々の賑わいは、演奏する側も聴衆の方々にも、幸せ感を運んで来ます。

2011 年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲分析

課題曲の中の課題 2011

監修・著作：櫛田 肤之扶

編集・制作：株式会社ウィンズスコア

配布・公開日：2011 年 5 月 31 日

楽譜引用元：

堀田庸元・佐藤博昭・新実徳英・渡口公康・山口哲人

『2011 年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲』全日本吹奏楽連盟、2011 年 2 月 1 日発行

※本書の著作権保有者は、著作者である 櫛田 肤之扶 であり、櫛田 肤之扶 の協力・許諾のもと、
(株) ウィンズスコアが本書を制作・公開しております。

※本書に掲載されている楽譜の一部は、『2011 年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲』からの引用
であり、全日本吹奏楽コンクール課題曲の権利は、(社) 全日本吹奏楽連盟に帰属します。

※本書の配布・コピー等の利用については、本書の内容・目的を理解した上で、金銭の受け渡し
が発生しない場合に限り許可いたします。

※本書を使用するの、第三者との紛争・トラブルが発生した場合、著作者・制作者、及び (社)
全日本吹奏楽連盟は一切責任を負いません。